



## Q 新総合計画の将来像は

新志会  
山本 博 議員

## A やる気と元気の循環で

**Q1** 新総合計画は、「協働」があつてこそ成り立つような仕組みであるが、現状と今後の対応は。また、新総合計画の具体的内容と、これまでの総合計画の総括的内容を伺います。

**A1** 「協働」の理解にかかわらず、実践活動が芽生えていると感じます。自治会、NPO、各種団体が協働の担い手として活動できるよう支援します。

職員の村民に対する意識は改善されてきたと考えています。社会貢献や地域貢献をするために公共的仕事を離れ、自発的に奉仕活動をする組織をめざし、また村民から意見やアイデアを取り入れる仕組みをつくり、成功例を作っていくことにより、「やる気」と「元気」が循環すると考えます。

これまでの行政運営ではコスト的に無理が発生し、結果的に住民負担が多くなります。海外の先進事例を参考



住民参加型幸せ社会を目指し開催されたフォーラム

に「小さな政府」を志向してきました。事務の部分委託や事業の全部委託などを検討します。職員は極力少ない方が望ましいが、住民との協働や職員の意識改革がなければ達成できないと考えています。

地域経済活性化を図るためには、企業誘致等の外発的な活性化のほか、内発的な活性化を進め、独自の付加価値を高めていくことが重要と考えています。村内外の多くの皆様からアイデアを募集し人材の発掘や育成も重要と考えています。

**Q2** ゆとり教育の成果と、学力低下の状況は。また、一学期制導入の検討は。

**A2** ゆとり教育は自ら学び自ら考える力、「生きる力」の育成をねらいとし、児童生徒が健全に育つよう進めています。

この間の学力低下は、国際調査等から危惧される状況にあり、今後児童生徒の実態を充分把握しながら一人一人に応じたきめ細かい指導を行い、学力向上を図ります。

二学期制は、授業時間数が確保しやすく、教師がじっくり指導を行うことができる利点もある反面、学期毎の評価が2回になり保護者が不安をいだく恐れもあり、先進事例を踏まえ充分検討してまいります。